

# 校務改善NEWS 第16号

発行日 平成27年12月22日

発行 校務改善推進会議  
事務局 東京都教育庁人事部職員課  
新宿区西新宿2-8-1 都庁第一庁舎北側36階

## 校務改善推進事業発表会

日時 平成27年11月12日  
午後2時15分～  
場所 なかのZERO 小ホール  
参会者 348名

### ▶ 校務改善推進事業発表会 事例発表の紹介です！

今年度も、校務推進月間である11月に、校務改善の推進に向けた活動の一環として、校務改善推進事業発表会を行いました。

今年度は、昨年度校務改善表彰を受賞した国立市立国立第二小学校と世田谷区立駒沢中学校、今年度経営支援部設置率100%の武蔵村山市教育委員会に事例発表をしていただきました。

#### 事例発表1 国立市立国立第二小学校

「子供の夢を育てる学校」、「自慢できる学校」をつくるため、「**かっ**とで進める校務改善」をキャッチフレーズに校務改善を推進しています。



「かさねる」…同じ目的の仕事を重ねて、仕事の数を少なくする。

「つなげる」…同じ活動をつなげて一つの活動にし、活動の数を少なくする。

「ととのえる」…組織や方法を整えて、無理や無駄がなくなるようにする。

また、「子供に関わる時間をもっと生み出したい」という教員の思いを実現させるために、各分掌を起点に会議や分掌、行事や時程の見直しなど、様々な校務改善を計画しており、その結果、教員が子供に関わる時間が増え、どの子も落ち着いて学習に取り組めるようにしたいといった内容の発表がありました。管理職のリーダーシップと教師集団による新しい教育システムの構築というトップダウンとボトムアップが理想的な形で展開されている様子が報告されました。

校長の経営のモットーである「スピード感」、「情報の公開」、「評価の活用」を柱に、「信頼される学校」をつくるため、「即改善」を合言葉に校務改善を推進しています。その核となるのが、「学校運営支援部」です。

「学校運営支援部」では、運営事務、学校評価、広報・校務IT化支援システム管理、検定支援、地域活動、NIE、若手教員OJT、庶務を担っています。

学校評価では、年間17回のアンケートを実施・分析し、即改善に生かすという取組が紹介されました。その他にも、様々な視点から校務改善が行われ、「仕事が明確になった。」、「自分たちの職務の認識が高まった。」、「教員、事務主事、学校主事の一体感が高まり、組織が活性化した。」、「退勤時間が早くなった。」そして、「学校運営が円滑で効率よくなった。」という成果が報告されました。

#### 事例発表2 世田谷区立駒沢中学校



「学力向上」、「体力向上」、「規範意識の醸成」を目指し、学校と教育委員会が一体となり校務改善に取り組んでいます。また、武蔵村山市では、学校事務の共同化を推進しています。

学校事務の共同化とは、学校事務のうち、都事務が行う総務・人事・給与・福利厚生等を拠点校で集中的に処理し、学校事務室は副校長及び教員の業務を補佐するという制度です。拠点校に4人の都事務職員を配置し、学校事務室に1人ずつ都事務支援員（一般職非常勤職員）を配置します。実際には、7校の学校事務を11人で行っていきます。学校事務を共同実施することにより、副校長が人材育成を行う時間や、教員が子供と関わったり、教材研究したりする時間を確保できるようになりました。

最後に、「先生には、先生にしかできない仕事をしてほしい」という言葉が紹介されました。これは、学校事務の共同化の実施に向けた協議を重ねるなかで、事務職員から出た言葉だそうです。この言葉には、多くの参会者が励まされました。

#### 事例発表3 武蔵村山市教育委員会



#### 校務改善ホームページ

東京都教育委員会のホームページ下方にバナーがあります。



「平成27年度 校務改善推進事業発表会」の発表資料（パワーポイント資料）も全て掲載しています。御覧ください！

## 校務改善推進事業発表会アンケートの自由記述より

- ・ 校務改善の意義は、副校長を中心に、教職員全員がやりがいを持ち、意欲的に仕事に取り組める環境づくりができることであると感じた。（校長）
- ・ 「校務改善」というと、いかに楽をするか、仕事の軽減のために…というイメージが強かったが、校務改善の取組を通して、教職員の組織を見直し、組織力をアップするということを感じた。（副校長）
- ・ 校務改善とは、子供たちのために行われるものだということが改めて分かった。（主幹教諭）
- ・ 業務・役割の見直し・精査を行うことの大切さを改めて感じた。個ではなく組織として取り組むことを意識することで、組織が活性化し、職員一人一人の意欲が向上し、一体感も生まれ、効率よい学校運営につながると感じた。（事務職員）
- ・ 学校における校務改善の推進には、校長先生のリーダーシップが重要であるとの感想をもった。また、その校長先生を支えるために、地区の教育委員会の支援が必要であると感じた。（教育委員会）

アンケートの記述から、今回の事業発表会をとおして、校務改善の必要性を再確認したり、自校の改革に向けて意欲を高めたりといった前向きなエネルギーを感じました。

今後も、こちらの「校務改善NEWS」やホームページ等を通じて、様々な先進的かつ実行力のある事例を広く周知していきたいと思ます。

## ▶ 校務改善とは？ その3 ～能力の向上～

本号では、「小中学校の校務改善推進プラン」の三つ目の具体的方策である「能力の向上」について特集します。

能力の向上に関しましては、平成26年度に「校務推進OJTの取組（実例）～校務を通じた人材育成～」として提案したところです。

「校務推進OJT」とは、「OJTガイドライン」に示されている教員が身に付けるべき4つの力（①学習指導力、②生活指導力・進路指導力、③外部との連携・折衝力、④学校運営力・組織貢献力）のうちの「学校運営力・組織貢献力」を向上させるものです。

「校務推進OJTの取組（実例）～校務を通じた人材育成～」から、校内ジョブローテーションモデル例の一部を紹介します。

### 「小中学校の校務改善推進プラン」より 業務実態調査における、 多忙感の少ない学校の実例 ～能力の向上～

- ・ 管理職がOJT体制を確立して、人材育成の機会を確保し、スキルの継承を目指している。
  - 個々に明確な目標設定を行い、成長を意識した校務分掌を設定している。
  - 主幹教諭・主任教諭が若手教員とペアになり育成している。
- ・ 日々の業務が自己研さんの機会と意識している。

経験校数	教職年数	年齢	小学校のジョブローテーションモデル	中学校のジョブローテーションモデル	
1校目	1年目	22歳	新規採用		
	2年目	23歳	クラブ・委員会担当 特別活動行事 避難訓練担当 ICT担当 運動会等の 行事委員長を経験 職場全体への気配り 組織を動かす経験 補教担当 時間割担当	基本的には副担任	
	3年目	24歳		教科主任を経験	中3担任で進路指導を経験（2回以上） （理想は持ち上がりで順序良い学年経験） 生徒会（副担当） その後、教務部を経験
	4年目	25歳		体育祭等の行事委員長を経験 職場全体への気配り 組織を動かす経験	
	5年目	26歳		教科書担当 時間割行事 進路指導部 ICT担当	
	6年目	27歳		持ち上がりが理想だが、状況により生活指導困難学年に配置	
7年目	28歳	主任教諭 選考受験			
2校目以降	8年目	29歳	2校目に入り、校務のサイクルは変わらないが、 <b>主担当として、若手の指導</b> 学年主任を経験 特別活動主任や、場合によっては、 <b>研究主任</b> や 生活指導主任を経験	生活指導部で <b>生徒会の主担当</b> を経験 主幹の配置によっては <b>生活指導主任</b> を経験 <b>教務副主任</b> として、 <b>道徳、総合的な学習の時間の主担当</b> を経験	
	9年目	30歳			
	10年目	31歳			